

## 郷土そば探訪の旅、パート6

相原喜代治

甦った郷土そば探訪

第十期江戸ソバリエ

郷土そば探訪の旅も最終章となり、かき集めた資料を整理していたら郷土そば10傑に入るであろう出石皿そばが抜けていたことに気づき早速、兵庫県豊岡市出石町に行って来ました。

### 出石そば & 出雲そば

農林水産省のウェブサイト、うちの郷土料理に掲載されている資料によると、始まりは、1706年(宝永3年)、信州(長野県)上田藩から国替えで但馬出石藩にやって来た藩主仙石政明(まさあきら)公が連れてきたそば職人と、それ以前からあったそば打ち技術に新たな技術が加わり、以来300年以上、改良を加えながら職人の鍛錬によって発展してきた、と記載されている。

出石そばの特徴はそばをのせている小皿は直径約13cm、幕末の頃、屋台で提供する際に持ち運びが便利のため小さな浅い手塩皿にそばを盛ったことが始まりとされる。のちに出石焼の白磁が使われるようになった。

出石皿そば



1時間待ちの賑わい



上田と言えば信州伊那市高遠とは 90k 程しか離れていない。1638 年に松本から島根県松江藩に国替えになった松平直政公に伴ったそば職人と同様、仙石政明公のそば職人も高遠のお殿様、保科正之公のそば職人の影響を受けていたと言っても過言ではない。

此が事実とすれば、保科正之公の信州高遠から山形への国替えルート(パート2 参照)、信州戸隠、富倉、越後十日町、小千谷、長岡、山形寒河江、山形、後の国替えの会津に加え松本城から松江城、上田城から出石城へ国替えされた二国のお殿様のそば職人も全てが保科正之公のそば職人の影響を受けている事になります、これらの地区では全て丸延しです、これも保科正之公のそば職人が伝授した証明になる。



出石町老舗近又店主の丸延し



出雲市老舗の丸延し

出石町は豊岡市の人口の約 12% がかつては武家屋敷が有った地域にそば屋、土産物店が軒を連ねている、出石町には 39 軒のそば屋がありその大半はこの地域に集中している、各店は独自性を出すため、そば粉は殆どの店では自家製粉で何種類かをブレンドし、そばの色、そばの太さ、ダシの甘辛等を出石皿そば巡りのチラシに 39 店舗を一覧表に記載し配布している。これがリピーターの多い所以かもしれない

い。また、出石皿そばは五枚で一人前だが但馬出石観光協会で実施の出石皿そば巡り巾着袋購入で三軒の店で食べ歩きが出来、三枚で一人前とするため食べ比べがしやすい。私がお世話になったそば店では皿そばを20枚で認定書が頂けるとあって多くのお客さんで賑わっていた。

この様に出石皿そば協同組合、但馬出石観光協会などの協力の他、各店の自助努力もあり公民一体となってそば文化を盛り上げ一大観光地となっている。

旅の三日目は島根県松江、四日目は出雲市を訪問、

松江と言えば出雲市と並び出雲そば、松江藩初代藩主・松平直政公の家臣が松江城下でそば切りを振舞ったことが始まりと言われています。

割子そばは、丸い器にそばが盛られた冷たいそばです、のり、ネギ、大根おろし、たまご、山芋などの薬味と、汁の入ったそば徳利が添えられます。

出雲独特のそばといえば釜揚げそばです、茹でたそばとそば湯を一緒に器に入れ、そこに海苔、ネギ、かつお節などの薬味を乗せお好みでつゆをかけて熱々をいただきます。

出雲そばについては前号(パート5)でも紹介しています、参考にしてください。



出雲・五色割子そば



出雲・釜揚げそば

## 資料 1

## 信州・三大名

## 転封履歴

## 高遠藩

氏名	官位/仮名	他の名	続柄	藩主在任	没年(年齢)	配偶者	所領/居所
保科正之	肥後守	幸松	徳川秀忠	1631-36	1672(62)	菊	1636(山形城)
			四男				(出羽)転封

## 松本藩

氏名	官位/仮名	他の名	続柄	藩主在任	没年(年齢)	配偶者	所領/居所
松平直政	出羽守	出羽介	結城秀康	1633-38	1666(66)	久	1638松江城
			三男				(出雲)転封

## 上田藩

氏名	官位/仮名	他の名	続柄	藩主在任	没年(年齢)	配偶者	所領/居所
仙石政明	越前守	主税	仙石忠俊	1669-1706	1717(59)	佐都	1706出石城
			長男				(但馬)転封

訪問日・令和6年6月7日から11日